

「負けてらんねえ」  
希望のイチゴを飯館から

さとう ひろし ようこ  
佐藤 博・洋子

有限会社いたていちごランド 共同代表

昭和26年（1951）、飯館村生まれ。

農業高校卒業後、露地野菜を中心に栽培していた実家に就農。さまざまな野菜の栽培を経て2004年、仲間とともに「有限会社いたていちごランド」を創業し、妻、洋子さんと夫婦で事業に注力する。原発事故後は避難生活を送りながら、2012年より3年計画で準備し、2014年より出荷再開。

飯館村は、震災直後に津波被災者を受け入れた地域です。

しかし原発事故が起きて避難ムードが徐々に高まり、村全域に避難区域指定。刻々と状況が変わる中、孫が通う学校や落ち着く場所を検討。

両親、息子家族と3世代だった暮らしは別々になってしまった。

そんな中で我々の希望を繋いでくれたのが汚染されなかったイチゴです。

ハウスの制御は自動なので苗は絶えることなく実を付け、検査も問題なかった。

「できるかもしれない」と思い、自己資金でハウス全面張替、培地もすべて交換して試験栽培。検査を重ねて再出荷を果たし、村で最初の出荷物ともなりました。

製菓に適した品種なので、顧客は企業や洋菓子店。深刻な風評がありましたが、小さな手ごたえを頼りに新規開拓を続けました。「負けてらんねえ」という気持ちで小さな洋菓子店も一軒一軒話させてもらったり、ハウスに足を運んでもらったり。

応援してくれる出荷先との繋がりもたくさんできた。今は震災前の水準まで復活させた生産量を維持していくことが目標。帰村者は3割ほどの飯館ですが、移住者も増え、かつての賑わいを取り戻そうとしています。

できることを着実に続け、次世代に繋げていきたいと思っています。



希望を繋いだイチゴ「雷峰」。  
現在は関西方面にも出荷されている